気候関連リスクに関する金融機関の取組の動向や課題

■ 金融庁は、2025年6月、「気候関連リスクに関する金融機関の取組の動向や課題」に関する報告書を公表。

- ✓ 約20社（大手行等・地域銀行・大手生損保）に対する実態把握に基づき、金融機関における取組や課題を整理。
- ✓ 「[金融機関における気候変動への対応についての基本的な考え方](#)」（2022年）の策定以降、金融機関は戦略策定やガバナンス強化、リスク評価、顧客支援等の取組を進展。一方、気候関連リスクの発現時期の不確実性等に起因する定量管理の難しさや、顧客の移行への資金支援による排出量（ファイナンスド・エミッション：FE）の一時的な増加などは継続課題。

戦略・ガバナンス

リスクの認識と評価

リスク管理

顧客支援

主な取組

- 気候変動対応・気候関連リスクを**経営戦略上の重要課題**や**トップリスクの1つ**として位置付け、設定した目標・評価指標達成のための**戦略を策定**
- サステナビリティに特化した会議体の設置や**テーマ監査（内部監査）**を実施
- 気候変動に伴う変化が自社に影響を及ぼす**波及経路を定性評価**及び**シナリオ分析**を活用して特定
- 気候関連リスクを**リスクアペタイトフレームワーク（RAF）**に組み込み
- 重要度の高いセクター・企業に対する**エクスポージャー**や**排出量のモニタリング**の実施
- 顧客セクター・企業の**対応状況を評価**し、**内部格付・債務者区分**や**エンゲージメント方針**に反映
- 多排出のみをもってダイベストメントは行わず、**エンゲージメント**を通じた顧客企業への働きかけ
- 顧客ニーズに応じて、**気候関連ファイナンスの提供**を含む**多様なソリューション**で顧客支援を実施

金融機関から聞かれた主な課題

- 気候関連戦略の事業計画等への落とし込み
- **顧客企業の戦略の勘案**や**パリ協定**との**整合性の確保**
- **顧客企業の取組差**から生じる**金融機関職員の知識差**
- 顧客企業個社別の分析の精微化や、**分析結果のエンゲージメント**の実施や**投融資の意思決定**等への活用
- 気候関連リスクの特徴により、**資本やリスク量のハードリミット**の設定・運用を含め**従来の金融リスク管理の枠組**で管理することが困難
 - リスクが発現する蓋然性や時間軸の不確実性の高さ
 - 非財務データの不足、計測手法が発展途上
- 顧客企業、特に**中堅・中小企業の意識醸成**
- **トランジション・ファイナンス**による**FEの一時的増加**
- **収益性の確保**・**リスクリターン**の**バランス**

金融庁は、金融機関の規模・特性等に応じて、具体的な気候変動対応の進め方は異なること等を十分に踏まえ、気候関連リスク管理や顧客支援の状況について、引き続き金融機関と対話を行っていく。